

# 仏様のおはなし新シリーズ第135集「お念佛のなかで」

いつもいつもアクセスをいただき有難うございます。

毎回楽しみにしておられる事だと思います。この人生の中で、いつか誰かと別れて行かなければいけない縁があります。死に別れであつたり、生き別れであつたりと、色んな別れがあります。大切な人を失うと、遺(のこ)された家族にとつては悲しみや苦しみがわきおこります。

お釈迦さまの説かれた教えに「四苦八苦」があります。その中に、愛するものと別れる苦しみ「愛別離苦(あいべつりく)」があります。愛するものと別れる苦しみは、さまざま苦しみの中でも特にきびしいものであると示されています。

『阿弥陀経』にこのお言葉があります。

「死に別れていくだけじゃない。再び会える世界がある」とお釈迦さまがお説きくださつているのです。今生(こんじょう)の世界では別れてしましましたが、共にお念佛申す私達には、亡くなつた方と再び遇わせていただくお淨土という世界があるのです。

人生において、怒りや、悲しみなど、苦しみの連続の中で、お念佛に出遇わせていただくといのちには限りがある事、自分中心の物の見方しかできていなかつた事に気づかされ、人間の力では解決することの出来ない「苦しみ」をどう受け止めどう生きていくのかを知らされるのです。

亡くなつた方はお慈悲の中にあります。阿弥陀様がご用意してくれたお淨土に、亡くなつた方が仏となつて生まれ、私に「南無阿弥陀仏」とよびかけ、ここにおいてくださつているのです。そこに生かされ願われている私達は、お淨土で再び遇わせていただくことが約束されています。

共々にお念佛のみ教えを聞かせていただき、しっかりとこの世を歩ませて頂きましょう。

担当は中央区平尾光専寺住職城厚慈でした。



福岡組